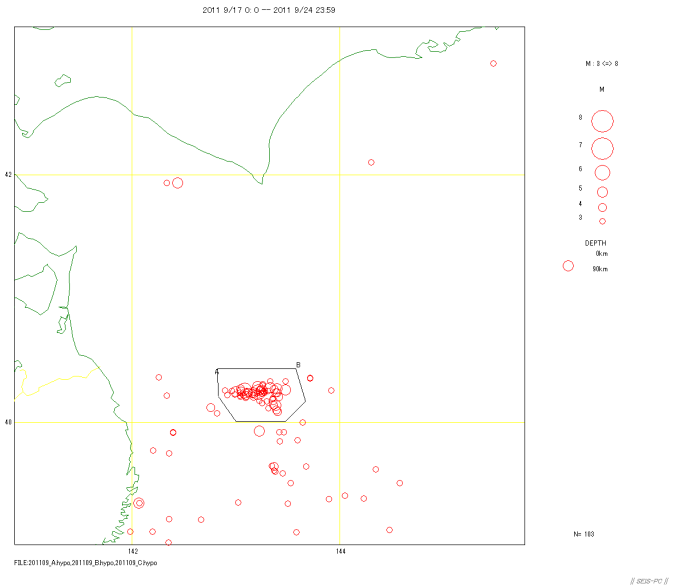


青森沖の地震活動（続報-第2報）

9月17日から活発化しました青森沖での地震活動の推移の現状です。9月24日までのデータでは、図中に実線で囲った地域の地震活動の異常はまだ続いています。

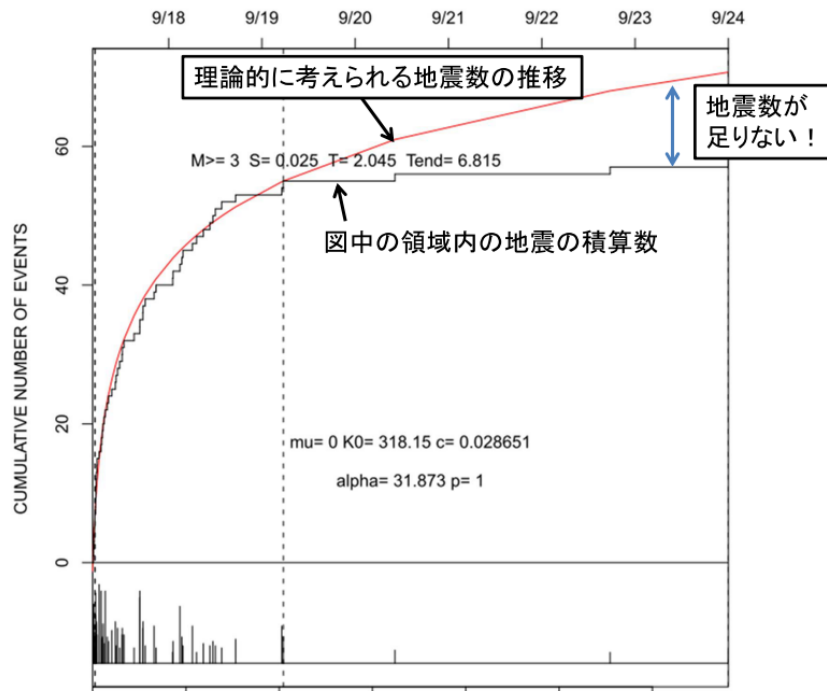
地震学では発生した地震の頻度分布の研究というのが数多くなされているのですが、現在の青森沖の活動はいわゆる“前震”と考えてもおかしくないものとなっています。

さらに地震活動というものはある関係で規則的に減衰するのですが、現状は17日の地震活動から期待される地震数より実際に発生した地震数が“極めて少ない=静穏化”状態となっています。またそれ以外のデータも併せて勘案しますと、**青森沖は10月5日ごろまでは十分に警戒が必要な状況**と考えています。



下の図は9月17日から24日までの地震数の推移を示したもので、本来なら図中の赤線のように変化するのが“通常”の推移と考えられる理論曲線です。

現状は明らかに地震数が足りない状況です。もう少しこの領域を注意深く監視していく事が必要です。言い換えますと、現在地震数が足りないのは、今後大きな地震活動が発生するための準備期間なのだとの解釈をしています。



東海大学 地震予知研究センター長 長尾年恭 教授